

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月8日現在

機関番号：34315

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H07246

研究課題名(和文)和刻本唐人別集の総合研究

研究課題名(英文)A Study on Japanese Edition of Anthologies of Tang Dynasty

研究代表者

富 嘉吟 (FU, Jiayin)

立命館大学・衣笠総合研究機構・研究員

研究者番号：00802696

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は和刻本唐人別集の研究を全面的に・総合的に行うものである。研究期間内では、長沢規矩也『和刻本漢籍目録』所収の唐人別集の部分を踏まえ、国内の主要な蔵書機関に赴いて原本を調査した。調査した結果を整理した上で、一部代表的な刊本を取り上げてその刊行事情を検討した。これによって、和刻本唐人別集には現存していない宋本の本文を保存する例や、藩校改革と関連している例があることが分かり、日本近世出版史・和漢比較文学史におけるその文化的意義が指摘される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は関連資料の整理・蒐集によって、和刻本唐人詩文集の詳細な情報をはじめ提供し、和刻本唐人詩文集に関する研究の発展の基礎を築いた。特に和刻本の利用が困難である海外の研究者にとっては貴重な参考資料になり、彼らの仕事を効率よく進めさせることを支援する。また、事例研究を通じて日本近世出版史・和漢比較文学史における和刻本の意義を改めて確認し、経史子集の四部や宋元明清の各時代にわたる和刻本の全面的な研究を推進することが期待できる。

研究成果の概要(英文)：This study is a comprehensive study of the study of the Japanese edition of anthologies of Tang Dynasty.

Within the research period, based on the part of anthologies of Tang Dynasty of Kikuya Nagasawa's catalog, we surveyed the original books at major domestic collection agencies. After organizing the survey results, we took up some representative books and considered their publication circumstances. As a result, it was proven that there is an example of preserving the text of printed books of Song Dynasty, and also an example has a close relationship with the reform of the domain school, which pointed out the deep meaning of Japanese edition of anthologies of Tang Dynasty in the field of Japan early modern publishing history and wakan comparative literature.

研究分野：人文学

キーワード：中国文学 日本文学 漢籍 唐代文学 出版 和刻本

1. 研究開始当初の背景

和刻本漢籍は中国や朝鮮で出版された漢籍を日本において覆刻したものであり、日本の出版文化史において国書に劣らない存在である。大多数の日本人は大陸刊本ではなく、当時大量に流通していた和刻本漢籍を通じて大陸文化を摂取した。

和刻本漢籍の刊行は經史子集の四部にわたっているが、なかでも唐人詩文集の数が多く、日本において唐代文学が多大な影響力を持っていたことを示している。和刻本唐人詩文集は概ね和刻本唐人別集・和刻本唐人総集の二類に分かれており、いずれも日本近世出版史・和漢比較文学史の研究に欠かせない資料であるが、本研究では和刻本唐人別集を研究対象として取り上げる。

(1)基礎作業 本研究の基礎作業としては、長沢規矩也・長沢孝三『和刻本漢籍分類目録(増補訂正版)』(2006)がある。同書には日本所蔵の和刻本唐人別集が著録されており、本研究の基礎となっている。また、長沢規矩也氏『和刻本漢詩集成』(1974～1979)は代表的な和刻本唐人別集を影印しており、便利に使用することができる。ところが、『和刻本漢籍分類目録』はすべての和刻本を著録するものであるため、唐人別集の書誌情報を詳しく掲載しておらず、その全体的な保存状況を把握しにくい現状である。また、『和刻本漢詩集成』所収の刊本以外にも、各蔵書機関には和刻本唐人別集が大量に保存されており、価値のある本を発見することがなお期待できる。

(2)事例研究 本研究に関する事例研究としては、太田次男など『白氏文集の本文』(1995)があり、これは那波本『白氏文集』に関する研究を行っており、その本文価値や文化的意義を評価するものである。ところが、現存する和刻本唐人別集は膨大な量を有しているが、これまでの事例研究は『白氏文集』などの有名な別集に集中しており、ほかの詩文集についての研究は殆ど進んでいない。また、一部の和刻本唐人別集はすでに利用されているが、大陸刊本の下位にある覆刻本と認識されて、日本近世出版史・和漢比較文学史におけるその文化的意義については十分に研究されていない。

2. 研究の目的

本研究は以上の研究背景を踏まえ、和刻本唐人別集の全貌を把握するとともに、代表的な刊本を取り上げてその刊行事情と意義を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

以上の二点の問題点を解決するために、次のような研究方法を考案する。

(1)基礎作業 和刻本唐人別集の総合的研究を行うためには、現存する和刻本唐人詩文集の全貌を把握することがまず必要である。書誌整理・原本調査などの研究方法を通じて日本及び海外に現存する和刻本唐人別集の書誌情報を全面的に整理する。

(2)事例研究 基礎作業を踏まえて独立な刊本系統がある和刻本唐人別集を研究対象として選定して、異文校勘・刊本系統整理などを通じてその本文価値を検討する。また、各事例に関わる歴史背景・人物情報・刊行経緯を加えてその文化的意義を探求する。

4. 研究成果

研究期間内では、次のような研究成果が得られた(時間順に表示する)。

(1)長沢規矩也『和刻本漢籍目録』を踏まえ、『静嘉堂文庫漢籍分類目録』など各公私蔵書機関の漢籍目録を精査した。得られたデータの整理を集中的に行い、『和刻本唐人別集目録稿』を作成した。『目録稿』は和刻本唐人別集を作者・版本によって整理した上で、初印・後印を区分して書誌情報や影印本の有無などを注記するものである。『目録稿』によって、和刻本唐人別集の全体的な保存状況を把握することができる。

(2)江戸時代に活躍していた京都の版元の天王寺屋市郎兵衛が刊行した『王昌齡詩集』『岑嘉州詩集』の刊行経緯を考察した上で、両本の本文の価値を論じた。天王寺屋が刊行した『王昌齡詩集』は享保年間の初刻本と寛政年間の重刻本の二種があり、底本として採用されたのは散佚した許自昌校本であり、その存在はこの和刻本の刊行によってはじめて知られた。また、寛政本の校勘において『全唐詩』を利用したことは、江戸中期の日本における『全唐詩』の受容を窺ううえで絶好の例である。『岑嘉州詩集』は寛保年間に刊行されたものであり、残宋本の現存していない本文を忠実に伝えており、岑参研究において看過できない貴重本と言っても過言ではない。以上の研究成果を「東亞漢籍交流国際学術会議」(2017年12月)にて発表した。発表後の質疑応答では、国内外の研究者から意見をもらい、本課題の遂行に関わる大変有意義な情報を得ることができた。

(3)名古屋市蓬左文庫所蔵の和刻本唐人別集の原本を調査し、「蓬左文庫所蔵和刻本唐人別集解題稿」の初稿を作成した。とくに尾張藩明倫堂刊行の『曲江張先生文集』について、その本文構成や成立背景・流伝などを詳しく検討した。明倫堂本『曲江集』は尾張藩明倫堂の刊行物の一つであり、万曆四十一年(1613)に李延大が補修した『唐丞相曲江張先生文集』十二巻本を底本とするものである。明倫堂本が利用した底本が、寛政五年癸丑(1793)に輸入され、明倫堂文庫に入蔵された唐本『張曲江集』四冊である可能性はかなり高い。また、明倫堂本『曲江集』の成立背景には当時の督学である石川香山の貢献が見られる。香山の唐代政治についての高い見識と活字出版への興味が、明倫堂本『曲江集』の出版に影響を与えたことが認められ

る。なお、明倫堂本『曲江集』は尾張藩の藩政改革と関連がある一方、藩校教育の需要に応じた教科書としての性質も色濃く見られる。同じ明倫堂出版であっても、『群書治要』と『陸宣公全集註』は初代督学の平洲によって出版され、藩政改革の理論の支えになったのに対して、『帝範』以降の出版は三代督学の香山によって推進され、その趣旨も藩政改革の理論支援から学校教育に漸次移行していった。そのため、明倫堂本『曲江集』の識語はその政治的意義に全く言及せず、「文範之助」のみを強調している。以上の研究成果を「中国芸文研究会」(2018年03月)にて発表した。後に徳川林政史研究所が所蔵する『尾州御留守日記』の原本を調査し、尾張藩明倫堂刊行の『曲江張先生文集』に関する新たな資料を発見した。この資料を加えて再考察し、「尾張明倫堂刊本『唐丞相曲江張先生文集』をめぐって」というタイトルで公刊した。

(4)『尾張徳川家蔵書目録』所収の唐人別集の索引を作成、公刊した。これは『尾張徳川家蔵書目録』(『書誌書目シリーズ』本、ゆまに書房、1999)が所収する典籍において、宋代以前の漢籍別集の所在を検索できるようにしたものであり、作者別・作品別のかたちで作成し、いずれも五十音順に配列した。索引は作者名、書名、所出、頁数(『書誌書目シリーズ』本所在の冊数及び頁数併記)、目録所載の冊数・版種及び現存状況によって構成されている。現存状況を確認できる場合は『名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録』(名古屋市教育委員会、1975)によって資料番号(漢数字)を記入する。索引によって、尾張藩所蔵の唐人別集の概況を一覧することができる。

(5)九州大学付属中央図書館及び文系図書館所蔵の和刻本唐人別集の原本を調査した。調査中では、『杜律集解』の版本を多く発見し、それぞれの刊記、刊年が異なることが確認された。それらの版本の存在によって、『杜律集解』が江戸時代の知識人にどれほど愛読されたかが見え、江戸時代における杜詩の受容に関する絶好例である。

(6)那波本『白氏文集』を利用して『文苑英華』及び校記に於ける『白氏文集』諸本の利用状況を考察した。とくに日本元和四年(1618)那波道円が刊行した古活字版は、白居易の編纂意志をよく反映するただ唯一の旧編成本であり、『白氏文集』の研究において淵源的な地位を有することを再確認した。また、仔細な校勘を通じて、那波本が宋代の蜀本系統に由来した本であり、宋代初年の写本に劣らない本文価値を有することを判明した。以上の研究成果を「第十九届唐代文学年会」(2018年08月)にて発表し、中国の研究者から有益な意見をもらった。

(7)和刻本唐人別集の刊行歴史を整理し、「立命館大学ライスボールセミナー」(2018年05月)にて「唐詩伝来：恵萼から市河寛斎まで」というテーマで講演した。講演では、日本人がよく知っている李白や杜甫・白居易などの作品は、どのように海を渡って漢字文化圏に伝来したか、平安時代の漢文学や『源氏物語』などの王朝文学にどれほど深い影響を与えたかを紹介した。また、唐詩の伝来は一方的なことであるが、唐詩の保存は日中両国の協力によって成立したものであることを確認した。さらに、漢文学というものもその漢字の起源地の中国だけではなく、中国や日本、韓国、ベトナムなどのアジア諸国によって初めて成立し、その意義も一国の文学史を超えて深く広がりがあがる学問になることを強調した。

(8)南京大学金程宇氏が編纂した『和刻本中国古逸書叢刊』(南京大學域外漢籍研究所專刊、鳳凰出版社、2012)の巻頭に収録されている同氏の序文を翻訳、公刊した。この叢書は日本で刊行された漢文古典籍の中の、中国にすでに散佚したものを蒐集して影印するものである。全70冊、計110種の和刻本が収録されており、『佚存叢書』や『古逸叢書』の後継として、日本に残存している中国古逸書の集大成と言えるものである。出版されてから、日中両国の研究者に好評を博し、和刻本漢籍研究の発展を推進することが大いに期待されている。編纂者の金程宇氏が序文において、和刻本刊行の略史や利用する底本の伝来などを体系的に解説し、本文価値や東アジア出版史・日本思想史などの多方面にわたってその意義を論じている。また、将来の和刻本研究の可能性を説き、今後の研究の進むべき方向に対して見通しを立てた。本序文は和刻本中国古逸書研究の現状・意義・目標を総括的に解説するものであり、和刻本研究において極めて重要な文献であるが、中国語のみで書かれているので、日本の利用者にとってはかなり不便である。金程宇氏「『和刻本中国古逸書叢刊』序」を翻訳したことによって、日本学界に向けて和刻本研究の最新動向を紹介し、これから両国の研究者の連携研究が一層推進されることと考えられる。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計4件)

(1) 査読有、金程宇、田中京・富嘉吟(訳)、「『和刻本中国古逸書叢刊』前言」、『立命館白川静記念東洋文字文化研究紀要』、第12号、pp.59-82、2019年。

(2) 査読有、富嘉吟、「尾張明倫堂刊本『唐丞相曲江張先生文集』をめぐって」、『汲古』、第74号、pp.27-33、2018年。

(3) 査読有、富嘉吟、「天王寺屋市郎兵衛刊本唐人二種詩集考」、『古典文献研究』、第21輯上巻、pp.106-116、2018年。

(4) 査読有、富嘉吟、「『尾張徳川家蔵書目録』所収漢籍索引(宋代以前・別集)」、『学林』、第66号、pp.199-210、2018年。

[学会発表](計3件)

(1) 富嘉吟、「『文苑英華』所據『白氏文集』諸本考：兼論『文苑英華』校記の文本來源及體

例問題』、第十九届唐代文学年会、2018年。

(2) 富嘉吟、「尾張明倫堂刊本『唐丞相曲江張先生文集』について」、中国芸文研究会例会、2018年。

(3) 富嘉吟、「天王寺屋市郎兵衛刊本唐人詩集考」、東亞漢籍交流国際学術会議、2017年。

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。